Gold Link Corporation

GOLD FOURSEASONS REPORT
2012年夏号

発行日　平成24年6月18日

目次：

今年第1四半期の世界金需要　1
特集：ユーロの行方　5
COLUMNⅠ：平泉視察記　8
COLUMNⅡ：平泉漫遊記　10

今年第1四半期の世界金需要

産金業界団体のワールド・ゴールド・カウンシル（WGC）が5月17日発表した『2012年第１四半期の世界金需要報告』によると、世界金需要は前年同期比５％減の1097.6トンでした。平均金価格が、前年同期比22％上昇したことから宝飾品や工業用需要が減少。ただ、投資需要と中央銀行の購入により減少幅は抑えられました。「金への投資ニーズは現在でも非常に強い」（インベストメント担当のマネージングディレクター、マーカス・グラブ氏）としている。

◎インド・中国の需要

▽インド

インドの今年第1四半期の金需要は前年同期比29％減少の207.6トンでした。金輸入税の引き上げの伴う混乱やルピー安に伴う国内価格の高騰で大幅減少し、世界全体の金需要の足を引張る形になりました。ただ、インド政府が5月に入って宝飾品に対する消費税の導入を撤回したことで、需要は回復の兆しを見せています。　インド政府は財政悪化の事態が表面化したことから、経常赤字削減の対策として1月に金の輸入関税を2倍（輸入価格の2％）に引き上げ、3月にはさらに倍（4％に）にしようとしましたが、全国的に業者による反対のストライキが起こり政府はこの引き上げ案を撤回する羽目になりました。この混乱は金の需要にとっては逆境でしたが、ちょうどこの時期はアクシャヤ・トリティヤ（AT）祭が近付いていたため(お祭りの前は消費が盛んになります。）この騒ぎによる需要へ

(2 ページに続く)

■世界金需要

	Q1.11	Q2.11	Q3.11	Q4.11	Q1.12	前年同期比
宝飾品	554.4	442.5	465.6	476.5	519.8	−15%
エレクトロニクス	79.8	83.8	87.1	80.9	75.4	±0%
その他	22.5	23.2	22.3	21.0	21.8	−9%
歯科	11.5	10.9	10.8	10.4	10.5	−10%
工業･歯科小計	113.8	117.9	120.2	112.3	107.7	−3%
金塊退蔵	280.4	222.9	294.2	269.0	260.0	−1%
公的金貨	62.7	64.2	76.2	54.3	51.3	+30%
メダル類	23.3	20.5	20.0	18.1	26.6	−29%
小売り投資小計	366.4	307.7	390.5	341.3	337.9	+1%
ETF･関連商品	−55.9	51.7	77.6	86.8	51.4	+290%
投資合計	310.5	359.4	468.1	428.2	389.3	+19%
需要合計	981.3	919.8	1,053.9	1,017.0	1,097.6	−2%

今年第1四半期の世界金需要

の影響は多少吸収されたとみられます。

▽中国

中国の今年第一四半期の金需要は、インフレ懸念と不動産規制措置を反映し、前年同期比10%増加の255.2ﾄﾝと四半期ベースでは過去最高水準を記録しました。内訳を詳しく見ると金地金・金貨などの投資需要は同１３%増加の98.6トン宝飾品需要は同8%増加の１５５．６ﾄﾝ。これは世界の宝飾品需要の30%を占めます。WGCは「中国ではさらなる需要の伸びが見込める。投資家は高インフレや住宅市場への規制を懸念しているため、実物資産を求めるており金需要は引き続き高まる」と指摘してます。

◎中央銀行の金購入

▽新興国の金買い継続

各国中央銀行の金購入は継続し、今年第1四半期は80.8ﾄﾝの買い越しを記録しました。ロシアやカザフスタン、メキシコ、フィリピン等が金準備高を増やしています。特にフィリピンの金準備高は前月末比32.13ﾄﾝ増加し194.24ﾄﾝと急増しました。下落傾向であったこの時期に各国の中央銀行は金準備を積み増しており、金価格を下支える要因となっています。

経済成長の続く新興国は外貨準備が急増しており、外貨準備に占める金の比率を維持するために、今後も継続的に金を購入すると予想されます。一方で他の国々ではユーロとドルの優位とそれぞれの外貨準備通貨としての健全性にたいして憂慮しており、準備資産の多様化の一環として金の準備を増やしております。

◎トルコの復活

▽歴史

トルコ東部のアナトリアは5,000年にわたって宝飾品を作ってきた場所で、今日、5,000の金生産者と3万5,000の小売店が存在します。古くから金が大好きな国民性で、金の1人当りの消費量は2.1グラム。これはアラブ首長国連邦（UAE)の7.0グラム、香港の2.3グラムに次ぐものです。

▽金の需要

トルコの金宝飾品需要は世界第5位、小口投資では第8位の市場で、合計31.1ﾄﾝ（2012

■主要国需要

	2012年第1四半期			前年同期比		
	宝飾品	投資	合計	宝飾品	投資	合計
インド	152.0	56.0	207.6	−19%	−46%	−29%
中国	165.0	100.7	265.7	7%	13%	9%
中東	41.0	9.0	50.0	−11%	18%	−7%
トルコ	15.9	15.2	31.1	−16%	−12%	−14%
日本	4.2	−3.4	0.8	2%	―――	―――
米国	17.6	13.6	31.2	−10%	−32%	−21%
欧州	6.5	61.0	67.4	−10%	−31%	−29%

注1：単位はトン
注2：前年同期比は12年第1四半期と11年第1四半期との比較
注3：中国の需要は台湾・香港を含んだ数値。

■世界金供給

	Q1.11	Q2.11	Q3.11	Q4.11	Q1..12	前年同期比
鉱山生産	663.9	708.8	746.2	717.1	673.8	+3%
生産者ヘッジ	6.1	−10.0	10.0	−6.0	5.0	−47%
鉱山生産小計	653.9	698.8	756.2	711.1	678.8	+2%
公的金売却	−122.9	−69.4	−148.4	−92.7	---	―――
リサイクル	350.9	429.3	426.5	414.9	391.5	+11%
供給合計	880.9	1,058.7	1,034.4	1,033.3	1,070.3	+5%

注1：単位はトン
注2：上記のQは四半期
注3：前年同期比はQ1.12とQ1.11との比較
注4：公的金売却のマイナス表記は中央銀行の買い越しを意味する。

今年第1四半期の世界金需要

年第1四半期）これは、アメリカと同じ位でドイツやスイス、ロシアより大きな市場です。

2011年の金の年間総需要はは32.6%増加し143トンに達しましたが、2007年に記録した249.3トンの半分程度の水準です。同国も2008年から2009年にかけての世界的金融危機の嵐に巻き込まれ需要は急減しましたが、そこからの回復基調が鮮明になってきました。

中でも宝飾品需要より投資需要が伸びており、金需要に占める割合がほぼ同じなのが同国の特色です。（左下表参照）2011年の金貨需要は前年比65.4%増(23トン増）の58.9トンと過去10年間で最高を記録し、金地金投資も前年比218%増（10トン増）の14トンとなり、過去最高を更新しました。

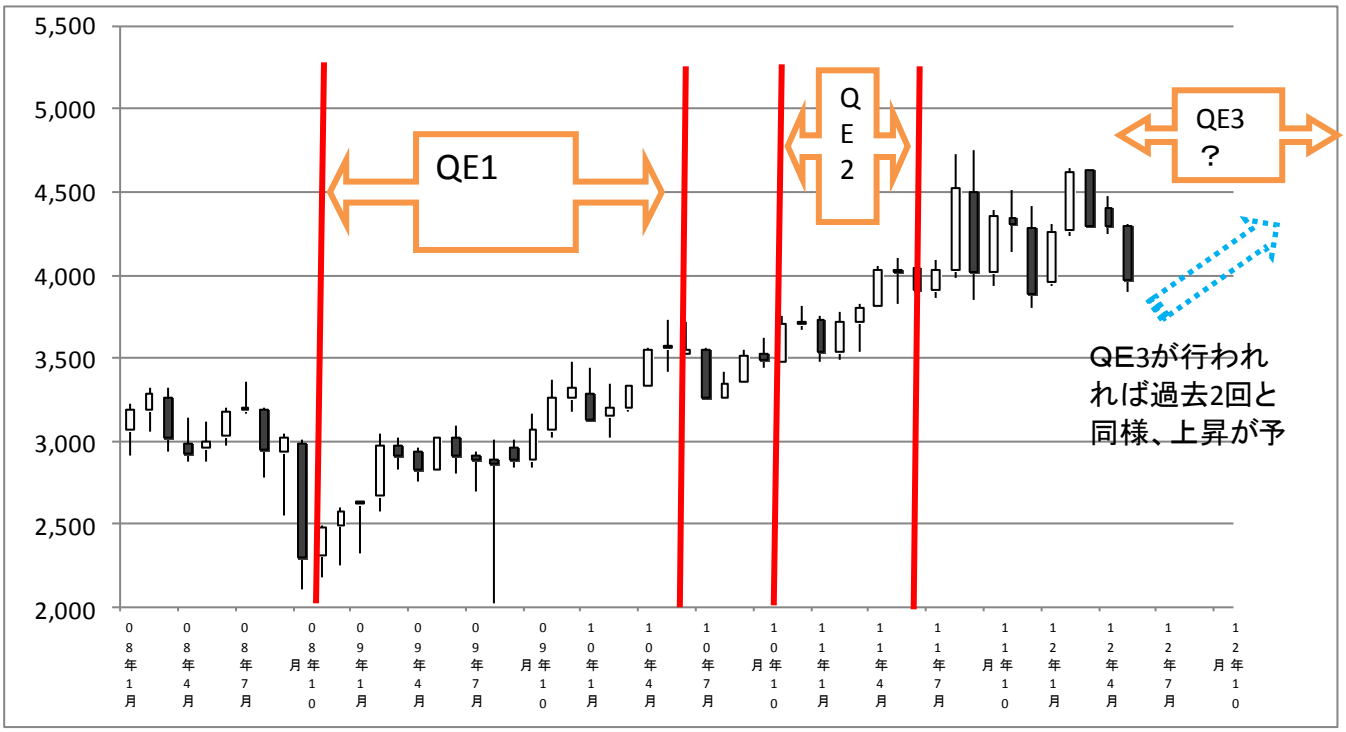
▽「枕の下貯金」

上述のようにトルコは、文化的に金に関心が強い国民性で、民間部門が大量の金を保有しています。しかし、それが経済システムと結びついていません。これを「枕の下貯金」と呼んでいます。日本で言う「たんす預金」と同様の意味です。トルコ政府は、この「枕の下預金」を経済システムへ取り込み、経済の活性化につなげようと新たな政策を導入しました。それは、金の宝飾品等を担保にして銀行が信用創造をすることができるようにするものです。

▽トルコ中央銀行（TCMB）

トルコ中央銀行は2011年、金準備高を前年の116.1ﾄﾝから195.3ﾄﾝへ79ﾄﾝ積み増ししました。

2012年初以降、さらに積み増し、209.6トンと発表されました。2010年までの10年間は、ほぼ100トン前後でしたので1年超で倍増させました。



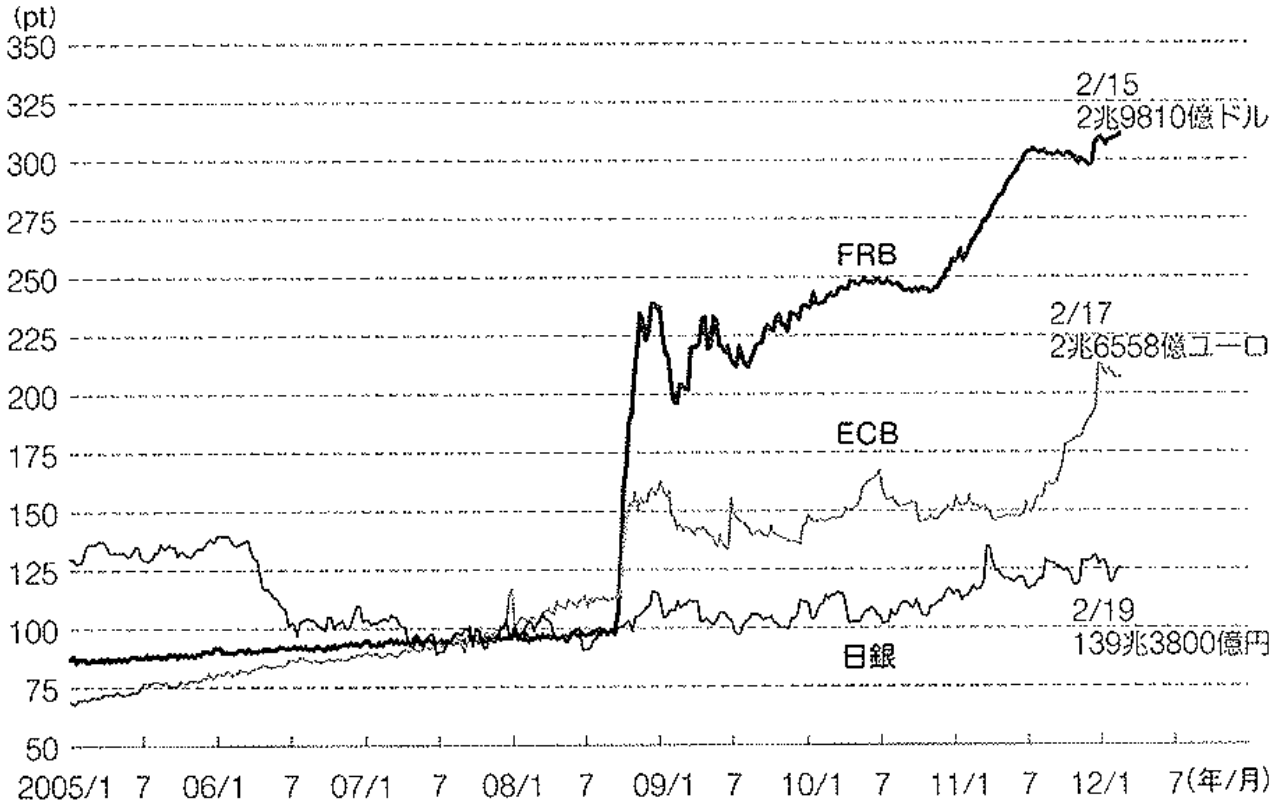
今年第1四半期の世界金需要

◎今後の見通し

ギリシャの再選挙が今月行われます。反緊縮財政派による新政権ができるとユーロ圏離脱が現実味を帯び、スペインまで金融支援に追い込まれるような事態になれば、金融市場はリーマン・ショックに匹敵する大混乱に落ちいると予想されます。しかし、当局もリーマンショックの時に学習したわけで、あらゆる備えをし、政策を総動員し混乱を最小限に食い止めようとするでしょう。その政策の1つが、アメリカによる量的緩和（QE3）です。QE1、QE2が行われた時、それぞれ約800円、約500円上昇しました。（前頁グラフ参照）いまでも紙幣がジャブジャブな状態（下図参照）なのに、この状況からさらにQE3となれば、将来のインフレ率上昇を通じて通貨の価値下落につながる恐れからインフレヘッジとしての役割を持つ金にとっては買い材料であり、通貨に対する信任低下が安全資産としての金の魅力を高めることにつながるでしょう。

また、ここ最近の下落場面では新興国の中央銀行が金を購入していることが確認されてます。今後、急落場面があったとしても、中央銀行の金購入は価格を下支えする要因となるでしょう。

日銀、FRB,ECBの資産規模の推移（2008年＝100）



特集：ユーロの行方

◎歴史

ユーロの導入は多分に政治的なところが大きく、純粋に経済学的にはこの様な共通通貨を導入するには適地ではないということは当初から言われていました。その学術的な分析の通り今日、矛盾が噴き出し、その火消しに大わらわという状況です。今日の混乱はなぜ起こったのか歴史を振り返ってみると・・・・

欧州諸国の統合への動きは１９５０年にドイツとフランスにより設立された欧州石炭鉄鋼共同体から始まりました。これは石炭や鉄鋼の生産を統一的に管理するという事務的な組織でした。しかし、隠れた意図があり、立案者のフランス外相ロベールシューマンは「ドイツとフランスの戦争を考えられないことにするだけでなく、単純に不可能にする」ための第一歩と述べております。このようにフランスにとってはドイツを制御するためであり、ドイツには独自路線をとって近隣諸国から警戒されることを防ぐ意味があり、周辺の小さな国は独自の道を歩むには規模が足らなかった。このような背景から統合、共通通貨の導入へと進んで行きました。

デフォルトとインフレを繰り返していたギリシャもユーロが導入されると、ギリシャ国債でさえドイツ国債と同様安全なものとみなされるようになりました。「ギリシャ政府がインフレを求めてもドイツ人とECBが防ぐのは間違いないから。」「財政赤字は厳しい上限が決まっているからデフォルトするなんてありえない。」２０００年中ごろにはギリシャ、アイルランド、スペイン、ポルトガル、どの国もドイツと同じようなリスクと考えられるようになり金利が低下しました。といっても同じユーロ圏に属しながら、ドイツよりは高い金利がつくギリシャ国債は魅力的な投資先として周辺国の銀行等から大量の資金が集まりました。ギリシャでは福祉や公務員給料の大盤振る舞いがなされ、アイルランドやスペインは住宅バブルが発生しました。エストニア、ラトビア、リトアニア、ルーマニアにも資金が流入しました。ドイツやフランスもそれらの諸国に輸出して経済成長を遂げ、欧州は繁栄を享受していました。

２００８年の世界金融危機はアメリカとヨーロッパで同時に起こりました。アメリカでは収入に比べて住宅ローンが大きすぎる借り手にお金を貸していました。ヨーロッパでも同様に支払い可能額を超えた額を欧州連合の新規加盟国に貸し出した。どちらも不動産バブルが起こっており、不動産価格が上がり続ける限り貸し出しは取り戻せる。でもいつか限界が来る。スペインやアイルランドはGDPに占める建設業の割合が大きく不動産バブルの崩壊と投資のストップで総雇用がスペインでは10%下落し、アイルランドでは14%も落ちました。バブルの崩壊をきっかけにしてあらゆる矛盾が一気に露呈しました。

ギリシャでは、２００９年の政権交代で新政府が会計上のごまかしを見破り、負債も単年度赤字もこれまで考えられていたよりずっと多いことが分かり、投資家たちは一斉に逃げだしました。。ギリシャの出鱈目さは例外として、スペインやアイルランドは数年前は予算は均衡し負債も小さくヨーロッパの優等生でした。しかし、不動産のバブル崩壊はこれらの国の財政に直接的に打撃を与えました。建設業の崩壊で税収が激減し失業の増加で社会福祉が増加しました。さらに追い打ちをかけるように倒産の瀬戸際に追い込まれた金融機関が続出し、それらの救済に多額の財政資金を投入しなければいけなくなり、国家が破産寸前まで追い込まれました。

◎通貨統合の利点、欠点

▽メリット

アイスランドの人口は３２万人です。独自通貨を持っています。では、人口が２倍以上の世田谷区は独自通貨を持つべきでしょうか？答えはもちろんNOです。世田谷区だけで使える通貨なんて両替の手間がかかってしょうがない。世田谷区の経済は東京都市圏の他の地域と緊密に連携しており、渋谷区や杉並区で買い物するために通貨を両替するくらいだったら独自の通貨を放棄したほうがましです。自国一国で経済が完結しているのでなく、他国とたくさん取引を

特集：ユーロの行方

することが多いと通貨を共通化するメリットは大であり、その規模が大きいほど効果も大きくなります。
ユーロ導入で貿易はおおむね10～15%程度増大したと言われております。

▽デメリット

バブルで物価が上がり、賃金も上がってそのあとバブルがはじけたらどうなるか？ドイツの様な国と競争するにはコストを下げなくてはいけない。まず、賃金引き下げです。しかし、賃金を下げるのは非常に難しいものです。大規模なデモや抗議行動が起こるでしょう。しかし、もし、自国の通貨があれば、賃金を引き下げる必要はありません。為替レートを調整すれば、実質的な賃金カットになります。自国の通貨を持っていれば、通貨の切り下げは一国の意思でできますが、共通通貨だとそうはいきません。

◎ユーロ圏とドル圏の比較（ユーロの弱点）

アメリカは、独立性の強い州が集まった連邦国家です。各州はドルという通貨を共通に使っています。ユーロ圏も独立した国家が共通の通貨を使うことで経済圏を構成しています。
よく似ていますが、違う点もたくさんあります。
まず、財政。ユーロ圏は財政的に結びついていません。スペインの年金をドイツは払わないし、政治的な決断がなければ銀行の救済もしません。アメリカは、州民への公的支出(保険、年金等）は連邦予算で支出しますので、州の財政への影響はあまりありません。

失業が増えると、ユーロ圏も労働者の移動は、国境を越えておこりますが、文化や言葉の壁があるのでアメリカの様に簡単に州境を越えるようにはいかず、不況な地域から好況な地域へ労働者が移動することによる失業の調整も進みにくいという面があります。ドル圏とユーロ圏では経済の統合の深さが、だいぶ違うようです。

▽最適通貨圏

経済が統合されていないと通貨の統合はうまくいかないということは、ユーロ導入の計画段階から言われていました。それでも計画が実行されたのは、「通貨統合をすれば経済統合が深まりその結果、通貨統合に必要な条件が整う」という考え方によるものです。ニワトリが先か卵が先かと同じです。
結局、予想通りといいますか心配されていたことがおこり、ユーロは存在基盤が揺らいでいます。

◎混乱の収拾方策

①荒療治

経済の流れに身を任せ、最適なところにバランスさせる。（内的減価といいます）
当然、国民は資本流出、失業に苦しむことになり、財政は引き締めとデフレ政策をとるので恐慌レベルの大不況になります。バルト諸国はこの道をとり、GDPが一時14%下落したが、いまは落ち着き成長を始めています。この道筋をたどればユーロの信認と一体性は保たれます。

②徳政令（鎮痛剤）+荒療治

バルト諸国は耐えられました。ギリシャもこの道を行けばいいのでは？残念ながら、ギリシャとバルト諸国では抱える債務の大きさが違っていてギリシャで強力なデフレ策をとると税収は減少し債務の残高はそのままですから、実質的債務の負担が大きくなり破綻してしまいます。（デット・デフレーション）　徳政令と組み合わせて、ぎりぎり耐えられるようにしなければならず、2011年6月には21%の債務カットが行われ、民間金融機関への債務も半減させました。この道も、徳政令をだした外国の指示でデフレ政策が行われるものだから国民のフラストレーションは相当大きなものになるでしょう。
（今、この状態）

③分裂

ギリシャが耐えられない、あるいは債権国の国民がこれ以上の借金棒引きが我慢できないとなればユーロ離脱の道をとることになるかもしれない。ユーロ脱退の手続きは条約で規定されておらず大混乱に陥るでしょうが、主権国家が意思を固めたならどんな外部の干渉もはねのけて実行するでしょう。
離脱した後、どうなるか？

特集：ユーロの行方

2002年のアルゼンチンと同様になるだろうと予想されます。当時アルゼンチンは、ドルとアルゼンチンペソをリンクさせ為替レートは固定されていました。延々と続く不景気で投資家から信頼を失い、厳格な財政規律を導入し、IMFから借入をしてみたものの不景気とデフレは続き、高失業率で社会も不安定になりつつあった。そんな時、暴力的なデモと銀行への取り付け騒ぎをきっかけにして、とうとう政府はペソとドルのリンクを切り離しました。当然、ペソは暴落しました。同時に政府はデフォルトを宣言し、1ドルに対して35セントしか支払いませんでした。その後は暴落したペソを利用した輸出産業の振興によって急速に回復しました。

アルゼンチンの場合、影響は基本的に自国のみでしたが、ギリシャの離脱はユーロ圏全体に動揺を与え、スペイン、イタリアにも波及するかもしれません。そうなれば統一通貨は完全に分裂です。

④欧州合衆国

ユーロの根本矛盾を解決するには、財政政策も統一する必要があります。金融政策はECBが一元的に行なっておりユーロの信用が維持されています。反面、各国は独自で金利の上げ下げによって景気変動をコントロールはできません。結果として財政政策に頼り、政府債務が膨らみ信用不安という今日の状況につながりました。これを繰り返さないようにするには金融政策だけでなく財政政策も統一する必要があります。（ドル圏との大きな違いが解消されます）

●欧州債を発行しそれを利用することで財政政策による景気変動に対応する。（←今、話し合いが行われています）
●各国政府の予算運営を監督する。
●欧州版IMFをつくる。

この様な仕事をするいわば「欧州財務省」を設立できればユーロ圏が抱える問題は解決できるでしょう。しかし、政治的に非常に困難です。この欧州財務省の方針を決定するのはだれか、その指図をフランスやドイツは受け入れるのか等、実現可能性は非常に難しいでしょう。

ギリシャの処理については先日の再選挙の結果、国民は②の道に行くことを選択しました。まだまだ、予断を許さない状況が続きそうですが当面の混乱は回避されたようです。スペインについては、各国が資金を出し合い、銀行部門を救済することになりました。そのなかで欧州共同債についてはドイツの反対がすこし和らいできています。いずれにしても一朝一夕には解決できませんので、今後とも要注目です。

≪余談≫
ドラえもん「してない貯金を使う法」

1800円の機関車のプラモを見て欲しがるも、しかめっ面で貯金箱を開けるのび太。
案の定、102円しか入ってなく、だからこんな顔してたんだとぼやきお金が無いので、ドラえもんに頼みがあると相談したが、お金を作るのは犯罪だと一喝され、パパに相談してみろと言われる。
パパに相談すると、肩たたきをすれば1日10円あげるので半年で1800円貯まるとアルバイトを持ちかけるが今すぐ欲しいんだと言うのび太。しかしパパは働く喜び、目標を達成した喜びを説くがのび太は理解せず去ってしまう。

そこへ、パパの弟が来てパパに、高級ゴルフクラブに車を見せるが安月給なのに？と不思議がるパパに月賦で買ったと言い「品物を先に手に入れながら、お金を払うのが現代人の生き方」と言う。
それを聞いて閃いたのび太。
早速、肩たたきを始め、タイムマシンで半年後に行き1800円を持ってこようとする。しかし貯金箱はなかなか見つからず、ようやく見つけて帰れば未来ののび太が待ち構え、返せと言い押し問答になるが、のび太とドラえもんは逃げて、プラモを買ってしまう。
未来ののび太は、後悔するぞと言い去り後悔する訳ないと、2人は早速作りだしたが、上手くいかずプラモは壊れ1800円は無駄に。
次の日、肩たたきは辞めたというのび太に計画を投げ出すな！と怒るパパ
このローンやカードの買い物システムはホント人間の弱い所を突いてくる。始めはともかく買い物癖がつくと、ホントヤバい事に！！
まさしくサブプライムローン、国家の債務膨張をよく表しています。
ドラえもんはホントいい漫画です。

COLUMN Ⅰ：平泉視察記

２０１２年５月１９日、２０日の２日間、岩手県の平泉への研修旅行に参加させていただきました。
皆様ご存知の通り昨年６月に世界文化遺産に認定されました平泉・中尊寺に行って来ました。ところで皆様、日本にはいくつ世界文化遺産があるかご存知ですか？実は、平泉を入れて１２の世界文化遺産があります。

９３年１２月　奈良県の法隆寺地域の仏教建造物
９３年１２月　兵庫県の姫路城
９４年１２月　京都府の古都京都の文化財
９５年１２月　岐阜県の白川郷・五箇山の合掌造り集落
９６年１２月　広島県の原爆ドーム
９６年１２月　広島県の厳島神社
９８年１２月　奈良県の古都奈良の文化財
９９年１２月　栃木県の日光の社寺
００年１２月　沖縄県の琉球王国のグスク及び関連遺産群
０４年　７月　和歌山県の紀伊山地の霊場と参詣道
０７年　６月　島根県の石見銀山遺跡と文化的景観
１１年　６月　平泉・仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群　　計　１２ヶ所になります。

皆様は何ヶ所行ったことがありますか？
私は今回の平泉で８ヶ所目になります。今回は平泉・中尊寺の歴史についてご紹介したいと思います。

平泉

平泉は（ひらいずみ）は、岩手県南西部にある古くからの地名であり、現在の平泉町の中心部にあたります。この地域一帯には、平安時代末期、奥州藤原氏が栄えた時代の寺院や遺跡群が多く残り、そのうち５件が「**平泉・仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群**」の名で２０１１年６月２６日にユネスコの世界遺産リストに登録されました。
なんと東北地方では初の世界文化遺産となり、地元の方々が喜色満面とされているのが非常に印象的でした。
因みに世界文化遺産に登録されたのは、１　中尊寺　２　毛越寺　３　観自在王院跡　４　無量光院跡　５　金鶏山　　の５箇所です。今回の研修旅行はその中の毛越寺と中尊寺に行きました。

～　毛越寺　～

毛越寺（もうつうじ）は平泉町にある寺院です。１２２６年の火災で多くの伽藍が失われ、１５７３年に完全に焼失しました。そのため、当時の本堂は残っていませんが、浄土式庭園は一部が特別史跡に、全体が特別名勝に指定されています。(因みに特別名勝と特別史跡の二重指定は、国内に８例しかありません) 開山は円仁と伝えられますが、再興したのは藤原基衡（ふじわらのもとひら）で、当時としては最大級の規模を誇る寺院だったそうです。

～　中尊寺　～

中尊寺（ちゅうそんじ）は、平泉町にある天台宗東北大本山です。国宝の金色堂、重要文化財の経蔵などを含み、境内は国の特別史跡に指定されています。寺伝によれば開山は円仁で、中尊寺の名前は清和天皇によって与えられたものとの事です。ただし、再興したのは藤原基衡で、前９年の役で相次いで家族を亡くしたこともあり、敵味方を区別せずに戦没者の魂を浄土へ導くことと、東北に優れた仏教文化を根付かせることを目指したものだったそうです。

金色堂

金色堂（こんじきどう）は国宝となっている阿弥陀堂です。
藤原基衡（ふじわらのもとひら）によって建立され、１１２４年に完成しました。高さ８m、幅約５mで、金銀をふんだんに使った華麗な装飾が施されています。内部には清衡、基衡、秀衡のミイラ化した遺体や泰衡の首級が納められています。このミイラの存在はかつてアイヌの習俗と結びつける見解も提示されていましたが、現在では、当時の京都でも見られた仏教の様式を取り入れたものと理解されています。当時の建造物群があらかた焼失した中尊寺にあって、創建当初の姿を伝える貴重な建造物であり、２００６年に行われた巻柱の年輪年代学による年代鑑定の結果からもそれは裏づけられています。

COLUMN Ⅰ：平泉視察記

覆堂（おおいどう）

国宝の金色堂は現在コンクリート造りの新覆堂（しんおおいどう）で守られ、ガラスケースの中に納められています。これは１９７０年に建造されたものであり、室町時代中期に建造されたそれ以前の覆堂は別の場所に移築され、それ自体が重要文化財指定を受けています。

経蔵（きょうぞう）

経蔵は清衡（きよひら）によって奉納された「紺紙金銀字交書一切経」（こんしきんぎんじまぜがきいっさいきょう・国宝）をはじめとする写経群を納めていた建造物ですが、２階部分は１３３７年の火災で損壊しました。「紺紙金銀字交書一切経」などは現在別の場所に移管されているが、経蔵自体が重要文化財指定を受けています。因みに金色堂は建造物の国宝１号です！！

ただ平泉・中尊寺が世界文化遺産に認定されるまで、実はかなりの苦労があった事は皆様ご存知ですか？

２００８年７月の第３２回世界遺産委員会では、日本は前年に「登録延期」勧告を覆して「石見銀山遺跡とその文化的景観」の登録を果たした時と同じように、積極的な働きかけを行ないました。そのときに示した補足説明では、平泉の豊かな黄金が「黄金の国ジパング」伝説のきっかけになったとされることや、戦没者の魂を敵味方で区別せずに浄土に導こうとした中尊寺、及びその延長線上にある平泉の造営意図が、ユネスコ憲章の精神にも通じることなどを示し逆転での登録を目指しました。しかし、ICOMOSの勧告を覆すには至らず、登録延期」と議決されました。

逆転を果たせなかった理由としては、すでに挙げたICOMOSの勧告内容のほか、「シリアル・ノミネーション」（連続性のある資産）として９物件を申請したものの、それらが個別に点在し、統一性のある文化的景観として説得的に提示しきれなかったことや、巻き返しを狙った日本政府の強い働きかけが２年連続となって反発を招いた側面もあったことなど、いくつか挙げられてます。平泉・仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群登録延期が決まった直後、文化庁などの関係者は、２０１１年の再審議を目指し、他の文化遺産の推薦をそれに優先させることはないと発表しました。

推薦資産を浄土思想の建造物群だけに限定することについて、専門家の中には平泉を過小評価するものという意見も見られましたが「登録延期」決議を踏まえて再検討をした結果、日本政府や岩手県はICOMOSの勧告に従い、基準に基づく推薦に切り替えることを２００９年に決めました。

そのため、登録名を「平泉・仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」と変更しICOMOSSから除外すべきと指摘されていた達谷窟（たっこくのいわや）白鳥舘遺跡、長者ヶ原廃寺跡、骨寺村荘園遺跡の４件の除外を決め、残る６件の資産で再構成することになりました。除外された４件は、平泉が世界遺産リストに登録された後に拡大登録を目指すことになりました。ただし、骨寺村荘園遺跡などは当初推薦要素に含まれていなかったにもかかわらず、文化的景観として推薦するうえで必要な資産として、国や県が地元に打診して追加したという経緯があるために、地元の受け止め方は複雑なものがあったとも指摘されています。平泉の文化遺産は２０１１年６月１９日から２９日に開催された第３５回世界遺産委員会（パリ）で審議され、６月２６日（現地時間６時２５日）に世界遺産リストへの登録が議決されました。

登録を受けて岩手県の達増拓也知事は、世界遺産委員会の場でスピーチを行ないました。

その中では以下のように、２０１１年３月１１日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)から３ヶ月あまりという時期に登録されたことの意義と感謝が表明されていました。

「平泉は１２世紀に、悲惨な戦争の惨禍から立ち上がり、永続的な平和を打ち立てるために建設されました。創設の父たちは、シルクロードを通って外国から導入された種々の思想を役立てました。

したがって平泉の登録は、平泉の建設のもともとの理念に立ち返りながら、３月１１日の惨禍からの復興という途方もない任務に現在直面している私たちに、大きな勇気を与えてくれるものです。」

－　*達増拓也*　－

同年７月３日には中尊寺で「平泉世界文化遺産登録、東北復興祈願金色堂参拝」が行われ、そこで達増知事により、「東北復興平泉宣言」が発表されました。これは世界遺産委員会でのスピーチと同じように、平泉創建の理念が東北復興の精神的支柱となることを、復興に向けた決意や支援への感謝とともに示したものでありました。

以上　**「平泉・仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」**の歴史と経緯をお伝えしました。

（W）

COLUMNⅡ：平泉漫遊記

5月19日と20日の二日間、岩手県平泉へ研修旅行に行って参りました。昨年世界遺産に登録された岩手県平泉町や花巻市を訪れ、歴史的にも価値のある様々な史跡や場所を見学してきました。平泉は以前から一度は行ってみたいと思っていたところだったので、行く前からかなりテンションが上がっていました。

5月19日朝、東京駅から東北新幹線「はやて」に乗り込み岩手県へ。往きの車内で本を一冊読み最初の研修がスタートです。黙々と読み一冊読み終える頃には岩手県に入り一関駅に到着しました。一関駅を出たところで我々を待っていたのは地元でも有名なタクシー会社アイタクシーの伊藤さん。平泉の様々な場所を案内してくれる「語りベガイド付きタクシー」の運転手さんです。平泉を見学した初日は大変お世話になりました。親切・丁寧な対応のアイタクシーをご利用の際は TEL 0191-25-6666 までお願い致します。

まずは国の名勝天然記念物に指定されている美しい渓谷、厳美渓(げんびけい)へ。そこへ向かう車中で伊藤さんに平泉の事を色々お聞きしました。昨年の地震の影響で一時はかなり観光客も減りましたが最近は活気が戻ってきたようで「やはり世界遺産に登録された事が大きいですね」とおっしゃっていたのが印象的でした。

厳美渓に着き驚いたのは、渓谷の美しい風景もさることながら、名物の「空飛ぶだんご」でした。渓谷の対岸にあるお店と篭のロープウェイ(動力は人力)が結ばれていて、こちらから合図をすると渓谷の上に張られたロープを伝って篭に乗った三色だんごが空中を飛んでこちらに届くシステムです。まさに空飛ぶだんご！非常にユニークな光景でした。

次に向かったのは達谷窟毘沙門堂(たっこくのいわやびしゃもんどう)です。約1200年前この地を支配していた悪路王がこの窟に塞を構え良民を苦しめたので、桓武天皇が坂上田村麻呂を征夷大将軍に命じて征伐の勅を下しました。縁起によれば、延暦20(801)年、窟に籠る悪路王を激戦の末打ち破った坂上田村麻呂は、戦勝は毘沙門天の御加護と感じその御禮に京の清水の舞台を模して九間四面の精舎を建て、百八体の毘沙門天を祀り、國を鎮める祈願所とし窟毘沙門堂と名付けた、とあります。確かにお堂を見れば、清水寺の様な建物の造りになっています。外から見ると岩に建物がめり込んでいるようにも見えます。中に入り奥の天井を見れば岩がむき出しになっていました。なるほど、窟毘沙門堂とはよく言ったものだなと思いました。

そこから車で五分程走り、ついに世界遺産の特別史跡・特別名勝、毛越寺(もうつうじ)に到着です。毛越寺は慈覚大師円仁が開山し、奥州藤原氏の二代目基衡、三代目秀衡の時代に多くの伽藍が造営されました。往時には中尊寺をしのぐほどの規模と華麗さであったそうです。ちなみにJR東日本のテレビCMで吉永小百合さんが歩いているのはこのお寺です。

寺伝によれば、嘉祥3(850)年、慈覚大師が東北巡遊の時にこの地にさしかかると一面が霧に覆われて一歩も前に進めなくなったそうです。ふと足元を見ると地面に点々と白鹿の毛が落ちており、不思議に思ってその毛をた

COLUMNⅡ：平泉漫遊記

どると白鹿がうずくまっていました。慈覚大師が近付くと白鹿は姿をかき消し、やがてどこからともなく一人の白髪の老人が現れ、この地に堂宇を建立して霊場にせよと告げました。この老人こそ薬師如来の化身と感じた慈覚大師は一宇の堂を建立し嘉祥寺と号したのが毛越寺の起こりとされています。

敷地内には大泉ヶ池という大きな池を中心に浄土庭園があります。奥州藤原氏の栄華と世界観を体現したかの様なその景観にはただ目を奪われるばかりでした。

次の場所は、中尊寺。まずは讃衡蔵(さんこうぞう)に展示されている仏像・仏具、経典・書画等の国宝・重要文化財を拝観し、その後はお待ちかねの金色堂です。御本尊は阿弥陀如来、脇侍に観音・勢至菩薩、さらに六体の地蔵菩薩と持国天・増長天が本尊を取り巻いています。その煌びやかさに言葉を失いじっと見入ってしまいました。まさに極楽浄土を表すような景観は見事でした。

そして、初日最後の訪問地は高館義経堂(たかだちぎけいどう)です。高館は北上川に面した丘陵で、当時からこの一帯の要害地とされていたそうです。源義経は藤原秀衡の庇護のもとこの高館に居館を与えられました。しかし、秀衡の子・泰衡の急襲にあい、この地で妻子と共に自害したと伝えられています。丘の頂上には第四代仙台藩主伊達綱村が義経を偲んで建てた義経堂があり、中に義経の木造が安置されています。

この高館からの眺望は平泉随一と言われているそうです。丘の上からの風景は、東には雄大に北上川が流れ、西には前九年・後三年の役の古戦場でもあり弁慶の立往生の故事でも知られる衣川が北上川に合流しています。義経堂の近くに松尾芭蕉の句碑があります。

> 三代の栄耀一睡の中にして、大門の跡は一里こなたに有。秀衡が跡は田野に成て、金鶏山のみ形を残す。先高館にのぼれば、北上川南部より流るゝ大河也。（中略）「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と笠打敷て時のうつるまで泪を落し待りぬ。

夏草や　兵共が　夢の跡

芭蕉が奥州藤原氏の栄華や、この地に散った義経に思いを馳せ詠んだ句です。なぜか物悲しさを感じさせる雰囲気でした。
初日の平泉の見学は以上で終了です。

翌日20日は花巻市内の宮澤賢治記念館を見学しました。

館に到着した時、入口の横にあるベンチの処で年配の女性と話す機会がありました。その方にどこから来たのかと尋ねられ、東京からだと答えると、「東北の復興の為に来てくれたのね。ありがとうね。」とおっしゃられました。「松島には行ったことある？」と問われ、昨年8月に行きましたと答えると、宮城県のご出身の方で「ありがとうね。」と再度おっしゃられました。偶然の出会いでしたがその言葉が心に染みました。 館内は様々に色々楽しめる工夫がされていて子供も楽しめるような展示になっていました。家族連れも多く来ていました。また、館内の売店の店員の女性の名前が「宮澤さん」だったので、聞いてみたら宮澤賢治の遠縁だそうです。ちょっと驚きました。

その後、新花巻駅から新幹線に乗り一路東京へ。始めて訪れた地でしたが非常に意義のある研修になったと思います。機会があればまた訪れたいと思わせる場所でした。（H）

Gold Link Corporation

ホームページもご覧下さい。
http://www.goldtsumitatekun.com

株式会社ゴールドリンク

Gold Link Corporation

東京都千代田区飯田橋2丁目8番5号
多幸ビル九段8階
電話 03(5275)5588
FAX 03(5275)5677
Email: info@goldtsumitatekun.com

GOLD FOURSEASONS REPORT
2012年夏号
2010年9月1日創刊 2012年6月18日発行 通巻第7号

●本誌に掲載されている情報は内容が正確であるよう最善を尽くしておりますが、内容についての一切の責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている情報に基づいて投資活動を行った結果、損害が発生したとしても、弊社はその責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている内容の著作権は、株式会社ゴールドリンクに帰属します。弊社に無断で転用、複製等することは固くお断りします。